

報道機関 各位

| |
|--------------------------|
| 記者提供資料 |
| 2021年(令和3年)7月28日 |
| 文化財担当課長 稲原 (918-5629) |

太寺廃寺の中世段階の姿をまとめた『太寺廃寺Ⅱ』を刊行

このたび、明石市では、太寺廃寺跡の埋蔵文化財発掘調査の成果をまとめた『太寺廃寺Ⅱ』を刊行いたしました。

この報告書は、1990年(平成2年)から高家寺境内地において断続的に行われてきた確認調査の結果をまとめたもので、昨年度、塔跡及び周辺の古代の遺構、遺物を中心にまとめて刊行した『太寺廃寺Ⅰ』に続くもので、主に現本堂周辺の中世の遺構、遺物を中心にまとめたものです。

この中では、境内から出土した文字瓦が、2014年(平成26年)に大蔵中町遺跡から見つかった瓦積み井戸の中に含まれていた「(建)治二年(1276年)」銘の瓦と特徴が酷似していることが分かり、太寺廃寺の再建に使われた瓦が、大蔵中町の井戸に転用されたもので、他の軒丸瓦や軒平瓦の特徴からも太寺廃寺の再建が建治2年(1276年)であることが裏付けられました。また、別個体の文字瓦には「衆病悉除」と薬師経の一部を記したものもありました。

調査報告書では、その他、本堂脇から見つかった3基の瓦窯なども取り上げ、鎌倉時代に再建後、室町時代に堂塔の補修が行われ、江戸時代の現本堂が建立されるまでの経緯を辿っています。

刊行した冊子は、市内の小・中学校に学習資料として活用してもらえるよう配布するとともに、文化博物館、各コミセンやあかし市民図書館等にも配布し、閲覧していただける予定にしています。